

40 しろうり

区 分	持続性の高い農業生産方式の内容	施用の目安等
有機質資材 施用技術	○ たい肥等有機質資材施用技術 土壌診断に基づき、適切に完熟たい肥等を施用する。	1 t /10a
化学肥料 低減技術	○ 局所施肥技術 局所施肥（土耕養液栽培等）により肥効率を向上させる。 ○ 肥効調節型肥料施用技術 被覆肥料等の利用により肥効率を向上させる。 ○ 有機質肥料施用技術 有機質肥料（油かす等）を用いた施肥体系とする。	化学合成窒素量 7.5kg/10a 以内
化学農薬 低減技術	○ 機械除草技術 除草機械により雑草（畦畔での害虫発生助長植物も含む）を駆除する。 ○ 生物農薬利用技術 生物由来の有効成分である農薬の利用により病害虫を駆除する。 ・生物農薬：B T剤(ウメカ)など ○ 光利用技術 光反射資材利用により害虫を忌避させる。 ○ 熱利用土壌消毒技術(施設) 太陽熱などの利用により土壌病害虫を駆除する。 ○ 被覆栽培技術(施設) 被覆資材により有害動植物の付着を防止する。 ・防虫ネット(アブラムシ類、コガ)など ○ フェロモン剤利用技術 フェロモン剤の利用により害虫の大量誘殺や交信を攪乱させる。 ・リトルア剤(ハモンヨトリ)など ○ マルチ栽培技術 紫外線反射マルチ、生分解性マルチ、稲わら等利用により有害動植物のまん延防止する。	化学合成農薬成分回数 4成分以内
<p>その他の留意事項</p> <p>有機質資材施用で肥料効果が期待できる時は減肥する。</p> <p>連作障害回避のため輪作に努める。</p> <p>収穫後の残さは、適切に処分する。</p>		